

「はだの大日堂保存会」入会案内

秦野の貴重な文化財保護を図ることを目的とし、広く働きかけ、多くの力を結集して、文化財の保護と一緒にしえの由緒ある栄えた時代を再興し、その史跡としてふさわしい景観を整備し、後世に伝えて行きたいとの思いにより当会は発足いたしました。この趣旨に賛同し、一緒に活動して頂ける人の入会を募ります。

また、私たちは活動とともに保存修理、再建を実現させるため、多くの方に寄付やご支援をいただき、一日も早い再興を目指しています。

拔粹

第3条 この法人は、一般市民に対して、宝蓮寺所有の国登録有形文化財に指定されている大日堂、仁王門、不動堂及び地蔵堂（茶湯殿）及び堂内の仏像を始め、数々の伝統的文化財の修復・保全、それら文化財周辺の環境整備、文化財の広報啓発に関する事業を行い、多くの市民が秦野の歴史と文化に親しみ、これらの伝統的文化財を後生に継承し、持続的発展を目指すことによって、秦野市の文化、芸術及び観光の振興に寄与することを目的とする。

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) 大日堂の仏像及び建物の修復と研究及び保全事業
 - (2) 大日堂周辺の環境整備計画の策定及び環境整備事業
 - (3) 大日堂の広報啓発に関する事業

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもつて特定非営利活動促進法上の社員とする。

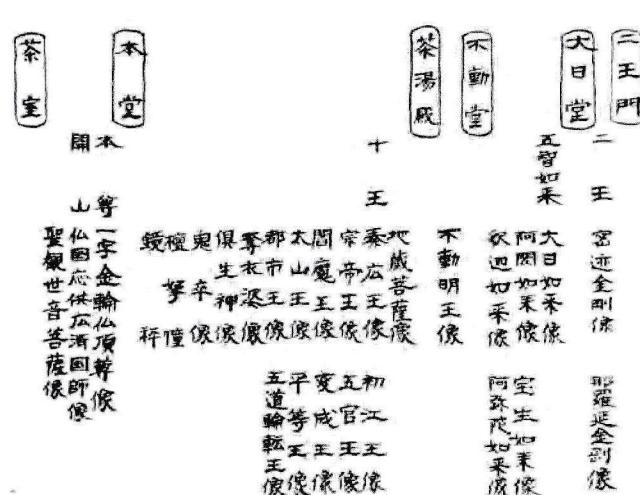
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び
団体

(2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動を支援する
ために入会した個人及び団体

附則 拔粹

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

- | | | | |
|---------|----|------------------|------------|
| (1) 入会金 | | | |
| 正会員 | 個人 | 0円 | 団体 0円 |
| 賛助会員 | 個人 | 0円 | 団体 0円 |
| (2) 年会費 | | | |
| 正会員 | 個人 | 2,000円 | 団体 10,000円 |
| 賛助会員 | 個人 | 1口 1,000円 (1口以上) | |
| | 団体 | 1口 5,000円 (1口以上) | |



特定非營利活動法人

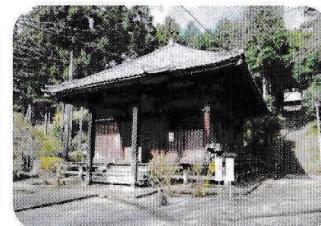
はだの大日堂保存会

〒257-0021 神奈川県秦野市蓑毛674
蓑毛山 宝蓮寺内
事務局 TEL: 0463-81-3528

大日堂周辺の仏像群



仁王門



大日堂



不動堂



閻魔堂

特定非営利活動法人
はだの大日堂保存会

大日堂

縁起によると聖武天皇の詔により行基上人が天平14年(743年)(奈良時代)覚王山・安明院(大日堂)を開山。天慶3年(879年)から永治元年(1140年)(平安時代)まで261年間、相模の国の国分寺であったと言われています。

五智如来像

堂内には、本尊である五智如来像と以前は観音堂にあった聖觀世音菩薩像が安置されています。

平安時代の五智如来がそろって存在する例は全国的にも少なく、また、木造・一本造りでこれだけの大きさは、平安時代作として関東のみならず、全国的にも貴重な存在です。

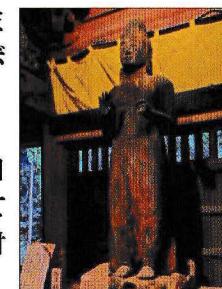
- ・大日如来 (だいにちによらい) 全高 199.5 cm
- ・阿閦如来 (あしゅくによらい) 全高 124.0 cm
- ・宝生如来 (ほうしょうによらい) 全高 125.0 cm
- ・釈迦如来 (しゃかによらい) 全高 123.3 cm
- ・阿弥陀如来 (あみだによらい) 全高 124.0 cm

大日如来は神奈川県の重要文化財、他の如来は、秦野市の重要文化財に指定されています。



聖觀音菩薩像

平安初期の聖觀音ですが、いたみが激しいのが残念です。以前は、大日堂の西方にあった觀音堂の本尊でしたが、建屋の老朽化により本尊を大日堂に安置しました。一木造りで内削は施されていません。像高228cmと胸、腹、腰はボリュームもあり堂々とした立像です。秦野市内最大、かつ最古の仏像です。かつては東国の觀音めぐりの百番目の結願の觀音さんとしてぎわっていたようです。秦野市の重要文化財に指定されています。



茶湯殿(閻魔堂)(地藏堂)

茶湯殿は閻魔堂、地藏堂、十王堂とも呼ばれていて、百一日目の茶湯供養を行う場所として、宗派に関係なく多くの方々に利用されています。堂内に鎮座した木彫りの地藏様は、その大きさも迫力十分であり貴重な文化財となっています。

十王像群

ここ茶湯殿には東日本でも類を見ない十王思想による冥界の仏像群があります。閻魔堂の中心に地藏菩薩、左右には一般に知られている閻魔大王含め10体の大王をはじめ、三途の川に待つ奪衣婆、鬼卒、生前の行為を記録している俱生神、淨瑠璃の鏡、人頭杖(檀拏幢)などが往年の姿をとどめています。現在堂内には十一軀の仏像が修復され見応え十分です。

この十王像群は、全て秦野市の重要文化財に指定されています。

	全高
・地藏菩薩	216 cm
・十王像 10体	95.3~119 cm
・奪衣婆	79.8 cm
・俱生神	右 169.3 cm 左 169.6 cm
・鬼卒	63.4 cm
・檀拏幢	右 169 cm 左 173.5 cm
・淨玻璃鏡	114 cm



光西上人入寂の地

江戸時代の中期、享保年間(1716~1735年)に、西日本一帯の飢饉のため日本全体が危機に瀕していたため、木食僧として修行を積んだ光西上人(茶湯殿庵主)が仏教により民衆を救済しようと東海、関東一帯を行脚し、大般若経600巻の願主となって淨財を集め、大日堂などの建物や内部の仏像群の修復を果たした後、この地に石室を造り、生き仏として入寂をし、事業の終焉としました。

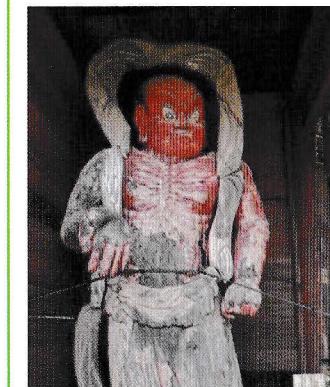


仁王門

江戸時代後期、19世紀前半に建てられたもので、屋根の棟には「葵の御紋」が飾られています。内部には大日堂を守護する役割を負った二王像を祀っています。

二王像

平成18年・20年の調査により、製作時期は平安期・西暦1100年中頃と推察されています。東日本で最古級の二王像の一つです。洗練度の高い作風は、単なる地方作ではなく、中央(京都)の影響が見え、京の仏師か、京の影響を受けた仏師の作と考えられます。平安朝後期・藤原期に遡る作例として、その本格的造顛とともに存在は極めて重要です。秦野市指定重要文化財。



吽形像「密綿迹金剛像」
(みっしゃくこんごうぞう)
全高 270 cm

阿形像「那羅延金剛像」
(ならえんこんごうぞう)
全高 268 cm

不動堂

江戸時代、17世紀末に建てられたもので、境内に現存する堂宇の中では、最も古い建物です。

不動明王像

かつて、五大尊(五人の明王)が祭られていたましたが、現存は不動明王のみです。五大尊縁起によれば秦川勝によって祭られたインド伝来の不動明王と言われています。現存する破損仏により、ここに五大尊があったことが裏付けられています。

